彼らは何杯かコーヒを飲んだ。朝食の前にペペは美人の受付係りに尋ねていた。もしかして、モデナ ソフィア嬢は自分の部屋にいるのかと。彼女はペペに、ええ、ソフィアは少し前に戻って来たと答えた。
―目が覚めるまで時間が掛かりますね、私が想像するには。スシが言った。
―それは確かだ、しかし、私は完全に確信しているが、彼女がこの事件を見抜いた私達を許すことを。（彼女のお蔭で事件が解決できる。）
―ボス、マキシミリアノ バネソと話していた、ポルセラノ公爵を覚えていますか。
―うん。
―ところでマキシミリアノはブルニルダ ボン ワグネルの真のお相手ですよ。そしてブルニルダは、チェマがソフィアと一緒だったあの日、ヘススが逢わなければならない人物でした。
―つまり、これ等４人は関係があるのだ。スシ、私達が終わりに近づいている、という印象的を持ったね。

★ ★ ★ ★

１時頃、ソフィアはホテルのプールに降りてきた。ペペは後で彼女と会うつもりで、彼の部屋に登り水着を探した。スシはソフィアの部屋に入らなければならない。彼女には考えていたことでよりも簡単な結果だった、丁度部屋の前を通った時、清掃中だった。清掃婦は何かを探すために一寸の間部屋を出ていた。そこでスシは中に入ったそして、戸棚のなかに隠れた。清掃婦が行ってしまうと、スシは窓越しにペペとソフィアが泳いだり話し合っているのを見た。時間がある。戸棚や引出を開け、浴室もみた、